

# なごみま☆ ショット

やまだ  
山田 陽菜ちゃん (戸郷町)  
H25年2月28日生まれ



父・母：いつも元気いっぱい  
で弟思いな陽菜ちゃん。  
明るい笑顔でみんなを  
元気にしてね。

やまだ  
山田 陽葵くん (戸郷町)  
H27年3月20日生まれ



父・母：いつもニコニコ  
で、お姉ちゃんのこと  
が大好きなはるくん。  
優しい子に育ってね。

まつら  
松浦 隆景くん (東本町)  
H24年9月26日生まれ



父：誰に似たのかお調子  
者で、妹のお世話好き。何に  
も興味をもって大きくなっ  
ているのがうれしいです。

お子さんの写真を  
載せてみませんか？

3歳までのお子さんの写真を募集  
しています。写真(データも可)に、  
名前(ふりがな)・生年月日・性別・  
連絡先・子どもへのメッセージを  
添えて、情報政策課または支所広  
報担当まで申し込んでください。  
郵送、メール(koho@city.shobara.  
lg.jp)でも受け付けます。

## まちづくりを進める市民活動登録団体 をご紹介します！

市は市内で活動している市民活動団体の登録制  
度をつくり広く公開しています。  
市民活動の充実、まちづくりの連携や協働を進め  
るため情報をお届けします。

特定非営利活動法人  
節分草保存会

活動 節分草の自生地調査・保護育成・公開  
内容 総領地域の春植物と里山の景観保全

による地域振興を目指して、庄原市の天然記  
念物で広島県の絶滅危惧種第2類でもある「節  
分草」の自生地の調査と保護育成および普及  
のための公開などを行っています。会員を随時募集中ですので、お気  
軽にご参加ください。

●「春告げる花 総領の節分草自生地公開」 2月20日(土)～3月13日(日)  
【問い合わせ】 事務局 ☎0824-88-7088

市民活動団体登録をしませんか？  
市は随時、登録を希望する市民活動団体を募集しています。  
詳しくは、自治定住課自治まちづくり係 (☎ 0824-73-1209)まで。



がんばれ！  
スポーツ少年団

### ●庄原三四郎

柔道を主活動とする庄原三四郎は昭和45年4月1日に結成。市内では  
庄原少年野球と並び、最も歴史あるスポーツ少年団です。元気であいさ  
つできるといった礼儀正しさ、友達を大切にすることを目標に、毎週木  
曜日の18時30分～20時に庄原市総合体育館で練習しています。保育園児  
から小学生が所属し、希望する中学生も一緒に練習に励んでいます。団  
員は随時募集していますので、興味のある方は声をかけてください。  
連絡先：須澤 ☎080-6345-4698、五刀 ☎090-9501-7318



うえだ ちえ えいま  
上田 千絵さん・英馬さん(口和町)  
英馬さん(右)は石川県小松市出身。平成  
26年4月、英馬さんが農地や農業機械ご  
と空き家を借りて口和町に移住。口和自  
治振興区職員として働きながら農業に従事。  
平成27年、山口県長門市出身の千絵さん  
(左)と結婚。2月に第1子出産予定。農  
地は1ヘクタール余り。

織物の勉強をした後、結婚を見据え平  
成27年に口和町に移り住みました。  
同年6月、二人は地域の神社で結婚  
式を挙げました。式と披露宴は地域の  
有志が立ち上げた実行委員会が主催  
し、多くの人が祝福してくれました。

手仕事、野良仕事  
大学では芸術学部だった二人。英馬  
さんは自治振興区の広報紙や口和地域

「ここには人や知識を含めて里山の  
豊かな資源が残っていて、食べ物や身  
の回りのものを自分たちで作ることが  
できます。しかし、人が減り耕作放棄  
地が増えて、集落の維持や技術の伝承  
などが危ぶまれています。里山の資源  
を少しでも次の世代に残せるようにこ  
の地で頑張っていきたいと思っています」  
と、英馬さんは語ります。

# しょうばら びと

vol.7

庄原市内の  
かがやくひとを  
紹介します

風景と人柄にひかれて  
上田英馬さん、千絵さん夫妻が口和  
に移住したきっかけは、二人と同じ大学  
出身の先輩でした。英馬さんは、先に  
口和町に移住していた先輩の家や牧場  
の片付けなどを手伝いに通ううち、口  
和の風景や自然、人の良さにひかれた  
そうです。地域の方や地域マネージャー  
の積山道弘さんに平成25年12月に移住  
の相談をし、翌年3月には住む家と自  
治振興区勤務が決まりました。千絵さ  
んは大学卒業後、資金を貯めて倉敷で

## 里山から創造する



千絵さんが染めた手ぬぐいと、英馬さんのイラスト  
のパンフレットにイラストを描き、見  
る人の心を和ませています。千絵さん  
は草木染の原料を家の周りで採取し、  
手ぬぐいや糸を染めながら、手織りの  
ための道具をそろえているところです。  
結婚式の引き出物には、千絵さんが  
捺染という手法でヤマドリのがいを  
染め抜いた手ぬぐいを配りました。来  
年は出産を無事終えたら、作った染物  
や織物を売ることが目標だそうです。  
「ここには人や知識を含めて里山の  
豊かな資源が残っていて、食べ物や身  
の回りのものを自分たちで作ることが  
できます。しかし、人が減り耕作放棄  
地が増えて、集落の維持や技術の伝承  
などが危ぶまれています。里山の資源  
を少しでも次の世代に残せるようにこ  
の地で頑張っていきたいと思っています」  
と、英馬さんは語ります。

口和自治振興区でのアットホームな仕事風景